知っ得なっ得

ライフ＆マネー

家族それぞれの流儀を知ろう

片付け法 3

家事の手伝い

金太郎　コロナ禍での生活が長期化し、それが夫婦の間に及ぼした影響はどうなんだろう。

得子　明治安田生命保険が昨年11月に発表したコロナ禍での夫婦関係の変化についてのアンケート結果が話題になったよね。20～50代の既婚男女1080人のうち「夫婦仲が良くなった」「どちらかといえば良くなった」と答えたのが計19・6％で、「仲が悪くなった」「どちらかといえば悪くなった」（計6・1％）の3倍に。残りの4分の3は「変わらない」だった。仲が良くなった理由では「コミュニケーションや会話の機会が増えたため」が最も多く、次が「一緒に食事をする頻度が増えたため」。

金　へーえ。そうなんだ。

得　片付けの専門家も驚いてた。

金　夫が家で仕事をすることが多くなり、片付けがらみで妻からの相談が増えそうな気がするけどね。どんな相談が多いか専門家に聞いてみた？

得　「夫が家にいて、家が散らかって困っている。どうしたらいいか」といった相談が多いそうよ。でも、相談を受けて深く聞いてみると、本当の不満は「夫が家事に協力せず、散らかしてばかりいる」ことなんだって。それでイライラして仕方がないと。

イラスト・深川直美

金　それまで昼間はいなかった家族がずっと家にいるようになり、ストレスを感じる人もいるかもね。

得　洗濯物を干したり、食器を片付けたりも、その人ならではの流儀があったりする。手伝うにも、その辺をわかったうえで本気で関わらないとけんかになりそう。

金　包丁や、まな板の片付けを手伝いたいから収納場所にラベルを貼ってくれと頼んだら、ウチの妻はすごく嫌がった。見た目がキレイじゃないから。けっこう難しいや。

得　話は変わるけど、夫婦とも家でテレワークになり、家のリフォームをするかどうか、迷っているという話を最近よく聞くなあ。

金　というと？

得　コロナ禍の前は、家族がどこにいるかすぐわかる「スペースが広くてすっきり」の家がいいと思ってた。でも家でテレワークの仕事が増えたため、夫婦別々にワークスペースを持つ必要が出てきたんだって。実際、押し入れや床の間を改造して個人の仕事場として使い始めた人もいる。リビングの一角に机や本棚を置いて家族共有のワークスペースをつくった人も。

金　へーえ。

得　リビングに簡易テントを立て、テントの中でパソコンを開けて仕事する人もいる。自分の部屋をつくるスペースがないのが理由。テントにこもった方がずっと集中できるんだって。

金　すごい時代になったもんだ。今更ながらそう思う。

得　その結果、出てくるゴミの処理も大変。片付けをちゃんとやっていかないと、それこそ家族ぐるみで大変なことになっちゃうよ。

金　整理と収納、がんばるぞ！

得　金ちゃん、一言言っておく。片付けに背を向けて、散らかし放題のまま最後まで生きていくことも出来る。都合が悪くなると奥さんに「悪いが頼む」と押しつけたりして。でも最後は自分に跳ね返ってくるものなのよ。やるなら本気でやらないと。

金　片付けも仕事もがんばるよ。ところで得ちゃん、家での仕事に疲れたら散歩とかする？

得　心身の健康のためにも楽しい散歩法、知りたいよね。

金　最後はその話を。

取材協力・有賀照枝さん（整理収納コンサルタント。片付け代行業「ハート・コード」代表）

（構成・小北清人）＝全4回